



宇治橋修造起工式(7月26日・饗土橋姫神社) 神宮司庁提供



第六十八号



遷宮奉賛と神宮大麻奉斎は同心円

教化委員長 松岡俊行

本年も神宮大麻頒布の時期を迎えました。各家庭では、氏神さまのお神札とともに神宮大麻をお祀りし、新しい年を迎える準備が始まります。神職、総代を始め神社関係者は、神宮大麻が一体でも多くの家庭に祀られるよう啓発に努めなければなりません。

さて、教化委員会では、今期の活動目標を「神宮式年遷宮奉賛の啓発と神宮大麻頒布向上に向けて」とし、全ての部会・特別委員会がこの目標を共通の課題として取り組んでおります。既報の通り、これまでの「鳥居付おふだ立てプレゼント」や、今期事業の一つである「未来の神棚デザインコンテスト」など、先ずは、お神札を祀る心の醸成を目指して施策を進めております。お陰さまで「鳥居付おふだ立てプレゼント」も毎回反響が多く、特に若年層の方の応募が目立つようになり、新たな新奉斎家庭の開拓へと繋げていければと期待致すところです。また、近年の住宅事情に鑑み行なわれた「未来の神棚デザインコンテスト」には、全国的な反響があり、将来の神棚のあり方に一石を投じた結果となっております。この二つの事業とも、まだ神宮大麻奉斎への第一歩に過ぎず、今後、更なる展開を進めて参りたいと存じます。

次に、遷宮奉賛については、第六十二回式年遷宮に向けて募財活動が順調に進められているところですが、本遷宮での経験を次回遷宮に活かすべく、委員会では、将来を見据えての活動を主眼にしており、今後、参宮促進・遷宮啓発のための教化研修会の開催を始め、遷宮と国民との関わりや御師についての歴史的研究、そして、神職、総代に対するアンケート調査結果をもとにした総代役員との座談会、神宮当局との意見交換など予定しております。

遷宮奉賛と神宮大麻奉斎とは同心円にあり、今後も双方を両軸として、啓発活動に取り組んで参ります。関係各位のご理解とご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

発行
さいたま市大宮区高鼻町1-407
埼玉県神社庁
電話048(643)3542番
編集室
庁報集
印刷
アサヒ印刷(株)

修験道から転じた神社の現在

宮 家 準

一 修験道とは

修験道は山・海・川・島などの霊地で修行して悟りを得たり、超自然的な力を獲得して、それをもとに人々の救済をはかることを目的とした宗教である。その成立は開祖に仮託された役小角が大峰山上の岩から主神の蔵王権現を湧出させたとの伝承、峰入などの儀礼とそれを意味づける思想が成立した中世初頭である。爾来、中世期を通して修験者は、大峰

人生儀礼、加持祈祷などに携わった。その崇拜対象は不動明王、観世音菩薩、権現、稲荷など多岐にわたっている。なお祈祷にあたっては、卜占や託宣によって災因を明らかにし、それに応じた祈祷を行った。こうしたことから、江戸幕府から公認され、神職の組織化をはかった吉田神道や、幕府から独立を認められた吉凶判断や卜占を旨とする陰陽道の土御門家との出入りが絶えなかった。

・葛城・出羽三山・白山・立山・富士・伯耆大山・石鎚山・彦山などの全国の主要な霊山やこれらをめぐって修行した。その結果各地の霊山をめぐる道に通じ、多用な情報を持つと共に武力を有したことから、源平合戦、南北朝期、戦国期などには武将たちに重用され、間諜、使僧、忍者などとして活躍した。

明治政府は神仏分離政策をとり、典型的な神仏習合形態をとる修験道を禁止した。そのために修験霊山の多くは神社となり、地域の里修験も生活の基盤である氏子を掌握するために鎮守の神主となった。もともと天台宗の聖護院門跡、真言宗の醍醐三宝院門跡に所属して僧侶になった上で修験活動をしたものも少なくなかった。富士山、木曾御岳など修験に淵源を持つ教派神道も成立した。また近世期の修験の託宣儀礼、加持祈祷に類する活動をする新宗教の教団も成立した。

近世期になると江戸幕府はこうした修験者の活動を統制するために、熊野修験に淵源を持ち、京都の聖護院門跡を本寺とする本山派と近畿の諸大寺に依拠した真言宗の修験者の結社の「当山方」を醍醐三宝院に統括させた当山派を競合させた。もともと羽黒山、吉野山、戸隠山など大きな勢力を持つ修験一山は東叡山（日光輪王寺門跡）末とした。修験者は各地に定住して、鎮守の祭祀、年中行事、

戦後は宗教法人令の施行に伴って、礼拝施設を持ち、設立登記すれば、宗教法人として教団活動が認められたことから、修験宗（現、本山修験宗）、真言宗醍醐派、大峰修験道（現、金峯山修験本宗）、修験道（五流修験）、羽黒

山修験本宗など数多くの修験教団が分派独立した。

二 霊山の神社と修験

周知のように戦後GHQ（連合国最高司令官総司令部）は国家神道を禁止し、神道は宗教としてのみ存続を許された。また憲法の政教分離により、従来の氏子組織や公教育の場で特定宗教について教えることが禁止された。この結果神社は独自の教えと儀礼を通して氏子や崇敬者を組織せざるを得なくなつた。また宗教法人令が施行された結果、神社にも大きな変化がもたらされた。そこで明治政府の神仏分離令、修験道廃止後、神社が主体となつた旧修験霊山と旧修験神社の変化と現状について紹介することにした。

旧修験霊山の神社では、境内地・行場としてその背後に山や森を持ち、そこに奥社が設けられていた。明治政府はこれらの土地を上知させ、国有地とした上で貸与していた。けれどもこのことは憲法の政教分離に違反する。そこで政府はこれらの土地が当の社寺にとつて宗教上必要かどうかを厳重に審査した上で、妥当な場合は払い下げることにした。そこで旧修験の山岳神社では霊山が宗教活動上必須のものであることを示すために、かつての峰入や祭りを復活させた。また山中他界観にもとづいて祖霊社を設けるなどした。これらの霊山の神社には先達に導かれて登拝に訪れる信者に宿を提供し、祈祷のとりもち、

山内の案内をする御師集落が形成されていた。宿坊を経営する御師は近世来の旦那をまわって配札し、登拝をすすめ、その組織を活性化することを試みた。そこで旧修験の山岳神社の変化と現状の主要な事例を紹介することにしたい。

まず神仏分離後神社に一本化したものには本県の三峰神社がある。当社は近世中期には三峯山観音院と号し、眷属のお犬様の盗難よけ、火災よけの利益を説いて多くの信者を集めていた。そして近世後期には、本山派修験の院室に任せられ、本山派の江戸触頭水川大乘院の後見を勤めるなど大きな勢力を有していた。明治の神仏分離にあたって当初は三峰権現を三峰神社に変え、観音院との境界をはっきり区別して修験として存続することを願ったが許されなかった。そこで明治四年(一八七二)には観音院を廃して、三峰神社のみとし、観音院の院主が復飾神動した。そしてさらに宿坊を一本化して神社直営とすることによって一致団結して信者の獲得と維持に努めている。

出羽三山では近世期は羽黒山と月山は東叡山末の天台寺院、湯殿山は真言寺院だった。明治政府の神仏分離令に際して、羽黒山(出羽神社)月山(月山神社)湯殿山(湯殿山神社)が統合して出羽三山神社を設立し、羽黒山麓の日向集落の御師の多くを掌握した。もともと若干の修験者は羽黒山奥院の荒沢寺を本拠にして、天台宗所属の修験として活動した。

そして戦後は「羽黒山修験本宗」として独立した。また湯殿山の注連寺は末寺と共に新義真言宗湯殿山派を結成した。出羽三山神社では古来の羽黒修験の夏の峰・秋の峰・冬の峰(松例祭)を実施している。一方出羽三山修験本宗では古式にのっとった秋の峰を実施し、新義真言宗湯殿山派ではミイラ信仰などをもとに信者を集めている。また行政も「いでは文化記念館」を設立して峰入を体験させるなどの試みをしている。

四国の石鎚山は近世期は伊予西条の前神寺が石鎚山蔵王権現の別当を務めていたが、明治政府の神仏分離令で前神寺は廃され、石鎚神社が設立され、石鎚山を支配した。その後明治四十二年(一九〇九)に前神寺が復活して修験活動を再開した。戦後石鎚神社は石鎚本教という教団を設立した。けれども石鎚神社自体は神社本庁に属している。また前神寺は真言宗石鉄派を形成し、その他西条の極楽寺が石鎚山真言宗、今治市の石中寺が石土宗を結成するなど多様な教団が併存している。

以上のように現在の修験霊山の神社には、神社に一本化した三峰神社、修験教団と競合し、修験的要素をとり入れた出羽三山神社、神社本庁所属の神社とは別に、神道系の教団を組織して講員を掌握し、修験的な活動はそちらにゆだねて、修験系教団との共存をはかる石鎚神社のように多様な形態が見られるのである。

三 地域の神社と修験

近世期の里修験は鎮守の祭祀に携わると共に住民の宗教的要求に応えて、多彩な活動を行っていた。また彼らの中には国学にふれたり、社会情勢に詳しいものも少なくなかった。そして神仏分離令が公布されると、関東・東北の里修験では鎮守・権現・堂などもあった)を神社に変え、復飾神動する例が多かった。これは神社の神職になって氏子組織を確保することによって生活基盤を確立することが出来たからである。修験も神道同様に儀礼を中心とし、その中には、中臣祓など神道と共通のものもあつたゆえ、転宗することにさして違和感はなかったのかも知れない。特に武蔵国では本山派江戸触頭の氷川大乘院がいち早く神社となり、三峰神社、高麗神社など、それに従うものが多かった。ただ当山派は江戸にあつた諸国総袈裟頭の鳳閣寺が廢寺となつたこともあつて消滅するものが多かった。

戦後は旧里修験の神社では伝統的な護符を発行したり、信者の依頼に応じて地鎮祭などの雑祭を積極的に行つた。また信者を組織して霊山登拝や社寺参詣を行つている。修験道の本質は霊山などで修行し、自然の中で自身にめぐめ、再活性化することにある。鎮守の森はもつとも身近な霊地である。それ故こうした営みは現在の神社においても必要なことと考えられるのである。

平成二十年度教化研修会報告

東 秀 幸

本年の教化研修会は七十二名の参加を以て、九月十八・十九日、三峯神社にて開催されました。研修主題を「日本の誇りと御遷宮」とし、講師には、作家で、明治天皇の玄孫であられる竹田恒泰先生、作家で、昨年NHKテレビで伊勢参りについて解説された金森敦子先生をお迎えしました。以下、講演を要約し、ご報告とさせていただきます。

講演 「皇室の弥栄」 竹田恒泰先生

皇室典範改正について

皇室典範改正につきましては、女系容認問題がありました。当初、単なる性別の問題として国民の賛同を得たかを見えましたが、家の領域の問題として、大多数の国民の理解を得られませんでした。しかしながら、秋篠宮若宮殿下がご即位あそばす時に、皇族はひとりもいらつしやらないという事態になります。このことを踏まえて皇室典範改正が議論されなくてはなりません。また、宮中祭祀の伝統を護る上での問題点を指摘されました。ちなみに「弥栄」は、皇室に対してのみに使われる用語であります。

国体について

日本は現存する国家の中で、最も古い国家であります。独自の文化を開花し発展してきた所以は、万世一系の天皇陛下を戴いているという歴史的事実があるからに他なりません。



ヤマト王権が成立してから現在まで同一の国家が連続し、鎌倉幕府や江戸幕府といった政体、つまり政治のあり方は時代と共に変化するも、「国体」つまり天皇が君臨している事実は日本史を通じて変化はありません。その所以は、我が国の正史である古事記・日本書紀によります。古事記は対内向け、日本書紀は対外向けという違いはありますが、いずれも我が国の国体の正当性が明記されております。神話の事実認定を問題視する向きもありますが、一切問題になりません。「天孫降臨は非科学的であり史実ではない」という主張は、「マリアの処女懐胎は非科学的であり史実ではない」というのと同じだけ愚かな主張であります。例えばキリスト教を国教として国が成り立ち、社会が形成されているならば、聖書を



前提にしなければなりません。同じように我が国は紀神話を「真実」として受け止め、社会が形成されております。

現在、国民の祝日はそのほとんどが記紀を根拠にし、憲法においても第一条は「日本国民は」や「衆参両議会は」ではなく、「天皇は」となっております。国が最重要と考えるものが第一条ならば、それは天皇なのです。戦後国民主権の名のもとで、天皇は統治者から象徴になられ、恰も国体が変わったやに申す者もおります。安津先生の言葉をお借りすれば「統治しなければ象徴になれない」という一言を以てしても国体は不動であります。国体の安定、並びに衣食住を始め二千年の文化伝統の修養を我が国は積み重ねている世界唯一の国家であります。

現在の世界の問題は、「和平と環境」であるそうです。和の国・日本、森羅万象神の御所為であるという、日本人の自然に対する信仰、和の精神は世界が注目しています。伝統

は古いが瑞々しい常若な国。日本の国振りを日本人が理解することが大切です。

講演 お伊勢参りと御遷宮 金森敦子先生
江戸時代のお伊勢参りが盛んになる前提として、庶民の経済力の向上と、幕府による街道の整備をはじめ、インフラの充実・旅の安全確保があげられます。

江戸時代は戦国の世が終わり、様々な経済活動が発展し、庶民生活が向上しました。しかし神宮においては、戦国時代に神領があらされ、朝廷の経済力が低下したため、新たな収入源が必要となりました。この神宮の困窮時に現れたのが、外宮の御師であります。御師は全国津々浦々を巡り、豊かになった庶民に、伊勢の神の有り難さを説きました。庶民も、農業の神であり、様々な産業の神である外宮の話は受け入れやすかったと思います。御師は後に多様化しますが、自分の受け持つ

檀那には、御祓大麻や伊勢土産を持参するとともに、伊勢の地に訪れるよう勧め、講組織を作らせました。庶民が実際に伊勢に行くと、御師の素晴らしい接待や山海の珍珠



に仰天し、御師宅で祈禱し、神樂を奉納しました。名所を巡っては土産を求め、古市では妓楼や旅籠・芝居小屋が立ち並

び、遊女らが毎夜賑やかに伊勢音頭を披露し、目くるめく日々を過ごし、村へ帰ると伊勢の旅の話になり、それを聞いた者は自分も行きたいと思うようになったことと思います。旅に出るということは、旅先での情報交換の場でもあり、流通や技術交換が盛んになり、経済に良い影響を与え、幕府もそれを支援しました。

教化研修会まとめ

平成の世の伊勢参宮も、御師・神宮周辺にヒントがあるように思えてなりません。現在、神宮は、修学旅行先第一位。おかげ横丁は、その整備により、ここ十年の集客は十倍にも増加したそうです。参拝者が増加傾向にある今、さらなる神宮並びに周辺の改革と整備が

望まれます。参宮において従来からの企画を見直し、旅の楽しさも必要であると思いい、分科会では

昨年引き続き現代の参宮を企画して頂きました。研修部ではこれを精査し、研修部案を作成したいと思っております。
(教化研修部長)



教化研修会日程表 (平成20年度)		
9月19日(金)	9月18日(木)	時間
起床		5:30
朝食		7:00
(荷物整理)		8:00
		9:00
別表発表		10:00
各部報告		11:00
閉会		11:30
昼食		12:00
		12:30
		1:30
	付食式	
	参拝式	
	講演1	
	室の竹田恒泰氏	
	見交換	
	意休	
	換	
	講演2	
	金子森敦子氏	
	伊勢参りと御遷宮	
	見交換	
	意入浴	
	食事	
	分科会	
	「つまらないとは伊勢参宮」	
	懇親会	
	懇親会	
	就	
		8:00
		9:00

平成二十年度埼玉県神社庁神職總會報告

宮崎博之

平成二十年度埼玉県神社庁神職總會は、児玉支部の当番で、本庄市「埼玉グランドホテル本庄」を会場に開催されました。来賓の各郡市総代会会長をはじめ、神社庁各支部神職計一七七名の大勢のご参加を頂きました。

午後一時三十分には開会式が始まり、開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き中山高嶺庁長、井上久県総代会長からの挨拶を賜り、来賓者紹介の後、總會へと進みました。

座長は当番である茂木賢児玉支部長が務め、議事に入り、まず、新任神職二六名の紹介があり、代表者として高麗神社権禰宜長田愛樹氏が登壇し、庁長より記念



品が授与されました。次に、前原利雄参事より神社庁業務報告があり、次いで、茂木治男教化副委員長より、教化委員会各支部の報告がなされました。

続いて、山田禎久神道青年会長、小柴捷子神道婦人会長、諏訪秀一教育関係神職協議会長より、各会の事業及び状況・方針等について報告がありました。

この後、研修会となり、はじめに、新井君美後継神職育成問題特別委員による六十周年記念事業の「後継神職問題アンケート」報告説明、次に、馬場裕彦神社実務部長による「未来の神だなデザインコンテスト」の結果を映像と試作品を展示した報告があり、活発な意見交換も交わされ、実りある總會で閉会となりました。

その後、会場を移して懇親会が催され、茂木支部長と次年度当番の島田道郎大里支部長による挨拶、竹本佳徳副庁長の乾杯で和やかに始まり、新任神職の方々の力強い自己紹介を拝聴し、押田豊副庁長の締めを以て盛会に終了しました。

(児玉支部事務局)

本宗奉賛委員会および神宮大麻曆頒布始祭

高橋寛司

十月八日、武蔵一宮水川神社において、埼玉県神社庁本宗奉賛委員会および埼玉県神社庁神宮大麻曆頒布始祭が開催された。

本宗奉賛委員会では、最初に事務局より平成二十年度神宮大麻曆交付数について、十月一日現在で県全体の請求数においては昨年度の頒布数をすでに約千体の増加であるが、支部別で見ると四支部において微減しており、モデル支部となっている入間支部の二千体を超える増体がカバーするかたちとなっているとの報告があった。

次に、一千万家庭神宮大麻奉斎運動・モデル支部制度について、二年目に入って具体的な取り組みを始めた入間支部の取り組みについて、原将英支部長より報告(本誌に別掲載)された。

このほか、各支部長、教化委員会・神道青年会・教育神職協議会から取り組み状況などが報告された。

次に、神宮式年遷宮について、事務局による遷宮奉賛会募財状

況の報告に続き、すでに目標額達成率が百七パーセントを超えた比企支部の澤田昌生支部長から経緯の報告があった。

最後の意見交換では、秩父支部の藺田稔支部長より、秩父支部において今後の増頒布、神社振興について新たな展開を模索するための広報企画会議を立ち上げるとの報告があった。

引き続き行われた神宮曆頒布始祭は、中山高嶺庁長以下、委員会出席者が列席し、水川神社職員により斎行された。

(庁報編集委員)



一千万家庭神宮大麻奉斎運動モデル支部制度 神宮大麻増頒布指定支部の活動について

原 将英

神宮大麻の頒布減は、日本神道を根底から揺るがすものであり、神道人一人一人が心して立ち向かわなくては成らぬことでもあります。

曾て、家庭の神まつりは、すべての家々にて行われて来ましたが、今、こうしたまつりの減少は、国民の中の無宗教化につながる行為であります。これは、我々神道人の見過ごすことの出

幸運を招くお札
あまてらすおみかみ
「天照大神」を
お祭りしましょう



新しくお札をお祭りされる方には
神棚(お宮)を進呈いたします。



初穂料「壹千円」
志願の方は氏子会にお申込願います。

申込書
住所
氏名
電話
紹介者
住所
氏名
電話

来ないものであります。

入間支部では、一千万家庭神宮大麻奉斎運動の第二期モデル支部指定にあたり、現状を見直してみると、これまで神職も氏子も、中大麻以上の大麻を申し受けたことはありませんでした。このことを先ず改めることとし、世帯を持つ神職は、挙りて中大麻以上を奉斎して範を示すことにしました。これにより、支部内の総代会役員、また、各神社の氏子総代、そして、氏子へと普及させて行きたいと考えております。神宮と氏神様と共に、家庭のまつりを重視させ、五年・十年後には、次の世代の人々が見習うように、先ず、一つ一つ進めて行きたいと考えております。

二世帯住宅で、子供たちが、神まつりを行わないことや、また、子供たちが別に住居を造り、神まつりを行わないことは、次世代への伝達が行われないこと

となり、日本人固有の宗教である神道が、消え失せる可能性までも含んでおります。

世界のどの国も宗教を持ち、人生の進む道、心の拠り所を持ち、貧しき者たちも富める者たちも、皆、自ら生きる人生に自信を持っていきます。日本人のみ無宗教などと言って、金銭のみを追求して生きるから、何か一つ事が有れば、すぐに人生が崩壊してしまいます。今、日本人の中で、中高年の人だけでも一年に三万人もの自殺者が出ています。次世代の人々に家庭のまつりを、生まれ来たる子供たちに教え導き、温もりのある家庭を作らせなくてはなりません。

入間支部では、神宮からご提供戴いた簡易神棚を有効に使わせて戴くために、各宮司の氏子地内において、最低五軒は新規に神まつりを始めてもらうことを目標とし、支部内の全宮司に伝達致しました。また、これを

勧めやすくするために、上にお示ししたような申込書を五千部ほどを作成し、本年より、実施することとなりました。

もしも、今年が目標が達成できない場合は、次年度も継続してでもこれをすすめ、支部管内の人々に一人でも多く神まつりを行っていただき、家族共々、明るく生きられるよう、教え導いて行きたいと考えております。

また、支部内では、現代の洋風化した居住感にも合う、お神札立ても配布し、簡単に神まつりが行えるように、生活の変化に順応したまつり方もすすめております。

今後、新しい方策を模索しつつ、県神社庁の指導を戴きながら、モデル支部としての活動をすすめ、少しでも大麻の増頒布に寄与できるよう取り組む所存でおります。

(神社庁入間支部長)

更なる研修制度の充実を目指して

― 雅楽普及研修会開催趣旨 ―

前原利雄

神社本庁研修所の業務の中心は、神職の養成、生涯教育の充実を図り、神職の資質向上にある。研修の開催に際しては、地方研修所では一般研修(教養・実務・実技・時局他)、地区では総合研修(地方研修を展開し、さらに中央では専門研修及び講師養成研修等を開催するなど、研修の系統化を図るとともに斯界における人材の養成をその目的としており、埼玉県神社庁研修所では、今日まで中央及び地区との技能連携を図り、様々な研修を企画・実施してきた。

そして、今年度、新たな取り組みとして雅楽普及研修会を開催した。

現在、斯界における県内の雅楽の普及活動は、おもに武蔵一宮水川神社を中心とする水川雅楽会・秩父三社を中心とする秩父雅楽会・箭弓稻荷神社を中心とする比企雅楽会の三団体がそれぞれ積極的に活動を展開している。中でも、毎年雅楽研修会を開催しているのは秩父雅楽会のみで、県内で雅楽を必要と考える神社や興味を持っている神

職・神社関係者がいても、技能習得の機会が限られていたのである。

御神慮を和め、祭祀の厳修を図る上においても、祭祀舞とともに重要な雅楽であるが、既に祭祀舞研修会は、神道婦人会が行っており、県単位での雅楽研修会開催が課題となっていた。

そこで、昨年来、五名の県雅楽講師にご相談・ご協議願ひ、今回の開催に至ったのである。本研修会の目的は、広く雅楽普及振興に併せ、将来の指導者を養成し、斯道の昂揚発展に期するためとした。

今後、この研修会を継続開催するなかで、技能の習熟度を見ながらではあるが、祭祀舞との合同研修なども考えてゆきたいと思う。そして、将来、県内多くの神社の祭典で雅楽・祭祀舞の奉奏が叶うことを願って止まない。

尚、開催に当たっては、武蔵一宮水川神社並びに水川雅楽会の全面的な協力を賜ったことをご報告し、厚く御礼申し上げます。

(神社庁参事)

雅楽普及研修会報告

遠藤胤也

去る九月四日、神社庁主催で雅楽普及研修会が、武蔵一宮水川神社呉竹荘において開催されました。今回は県内雅楽講師五名全員が指導にあたり、神職・氏子・学生・一般愛好者、総勢四二名という多数の参加をいただきました。

まず、午前十時より水川神社正式参拝を行い、引き続き開講式では、神社庁前原利雄参事、水川神社宮崎泰一禰宜より挨拶を賜りました。午前十時三十分より「平調音取」「越天楽」「五常楽急」を講師並びに元講師神原好允氏、水川神社池永衛治権禰宜のご協力を賜りまして、模範の管絃として打物・絃物を入れて奏しました。楽曲・楽器の説明は

でしたが一同熱心に受講され、最後には各管音頭を決めた上で、模範演奏と同じ曲を受講生一同で奏して研修会を修めました。

現在我々が耳にしている雅楽の『めぐり』(旋律)は、明治に入り統合整理され、特に水川神社において、宮中の楽師により祭典楽として初めて奏でられたといわれております。今年には維新百四十年、明治天皇が水川神社の大前で御親祭あそばされ、以来、明治天皇の思召し召しで、一般人も雅楽ができるようになりました。

このような由縁のある神域にて研修会ができましたことを、ありがたく思うと同時に、多くの方が受講され、特に國學院大學の学生を始め、若手神職の方々が熱心に研鑽されているのを目にし、心強く感じました。今後は神社庁の諸行事祭典や祭祀舞との合同研修などやっていければと思う次第でございます。

最後に研修場や楽器などをご協力いただいた水川神社並びに水川雅楽会に感謝申し上げます。

(神社庁雅楽講師)



千島幸明講師による行われ、午前十一時から各楽器を初心者・経験者に分けて講習にうつりました。残暑厳しい折、短い時間

埼玉県神社庁研修所主任講師就任挨拶

中山高明



去る十月三十一日、任期満了により高橋千里氏が勇退され、不肖ながら私が主任講師に選任され、十一月一日付で就任致しました。

埼玉県神社庁研修所では、毎年教化研修会を始め各種研修会を行なっております。その中で講師会では、七月上旬に経験を積まれた方を対象にした祭式指導者養成講習会を、また、経験の浅い方を対象とした初任神職研修会を八月上旬に学科部門を、八月下旬に祭式部門を中心とした研修を行なっております。

初任神職講師は、全員が神職と神社庁職員であり、教えるということについては専門家ではありません。従って教え方、時間配分の方法等、それぞれの講師なりに工夫しなければなりません。また、人に教えるということは大変難しいものでもあります。講師自身が改めて勉強し、知識を身につけることは勿論で

すが、特に初任神職研修会では、私たち講師が日々の奉仕の中で学んだこと、経験したことを奉仕して間もない神職に伝えて行くことでもあります。

そして、研修会で初任神職に伝えたことが、神職としての教養を深め、これから始まる日々の御奉仕や御社の維持・管理といった運営面に少しでも役立つならば、講師としての責務が果たせるのではないのでしょうか。その為には、私ども研修講師一人一人が更なる研鑽に励まなければならぬと思っております。

神職としての使命の第一義が御神徳を発揚し、神社の尊厳を守り、祭祀を厳修し、氏子・崇敬者を教化育成することであるならば、各種の講習会を通して、少しでもその手助けをする為に、微力ながら努力してまいりますので、各位の御教導・御叱正をお願い申し上げます。就任に際しての言葉と致します。

(寶登山神社宮司)

平成二十一年神話カレンダー作成報告

吉田弘



はじめに、本年の神話カレンダー作成にあたりましては、早期納入の希望にお応えできるよう、準備をまいりました。しかしながら不手際で配布が遅れてしまい、ご協賛いただきました皆様には深くお詫びを申し上げます。

さて、今回も紙芝居の様な仕上げを心がけて進めてまいりました九作目の神話カレンダー。当初『古事記』の「国譲り」から「天孫降臨」までをまとめる方向性でしたが、年間六枚の絵では文章とかみ合わないのでは、との懸念から題名を『天孫降臨』に絞り、文と絵が対称になるようにし、膨らみをもたせた文章にしました。

今回も、伊勢神宮式年遷宮に絡み、神宮は日本人にとって大切な場所・大切な神さまをお祀りしているところなんだと、少しでも感じてもらえるように構成しました。

あらすじとしましては、天照大御神の息子の天忍穗耳命に代わり、日本の国を治めるように命じられた孫の邇邇芸命。天降ろうとしている時に現れた光輝く神、それは道案内に向いた猿田彦命と解ります。天照大御神より三種の神器を授かり、将来を託された邇邇芸命は、いよいよ天孫降臨をして高千穂の峰に至ります。以来、天照大御神から授かった三種の神器の一つである鏡が、今日の伊勢神宮にお祀りされているというお話にまとめました。

また、三種の神器についての説明は注を設け、文中の解釈については、学術的な見解にはせず、子供たちに感じとり易い表現にしました。

結びに、今回のご協賛は、お陰をもちまして二万五千部を超え、皆様には篤く感謝申し上げます。今後も次回に向け、鋭意作成に努めますので、変わらぬ神話啓蒙にご理解ご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

(教化事業部副部長)

埼玉県神道青年会事業報告

山田 禎久

神社の持つ悠久の歴史に比して、人ひとりが神職として奉仕できる時間はあまりに短く、それ故に、日々の神明奉仕や青年会活動における私たちの責務は「先人から受け継いだものを次代に確かに引き継ぐこと」にあると考えます。そこで埼玉県神道青年会では、創立五十五周年を迎える今期（平成十九・二十年度）の活動テーマを「継承し繋ぐ」とし、事業の柱として四つの「継承」を据えて参りました。

- 一、いのちの『繋がり』の尊さを啓蒙する事業
- 一、先輩方から引き継いだ当会の『継統』的事业
- 一、祖国を今日に『繋げて』くださった英霊に対する慰霊事業
- 一、連綿と『継承』されてきた神宮式年遷宮を啓蒙し、大麻奉斎を推進する事業

本年八月から十月までの三ヶ月間執り行われた事業について、以下ご報告致します。

◆「いのちの繋がり」啓蒙事業（九月十四日）

昨年に引き続き、比企郡小川小学校下里分校において一般家庭の親子を対象に教化事業を開催。「先祖から繋がる命の尊さ」を伝えた昨年とは趣を変え、「生きる上で他の動植物の生命をいただいていること」に対する感謝を涵養することを目指しました。

◆第二十八回禊錬成研修会（九月八日）

昭和五十六年、記念すべき第一回の禊錬成研修会が行われた越生町熊野神社社務所・同町黒山三滝。本年は同会場をお借りし、研修会を開催いたしました。禊・鎮魂に先立ち、神社庁前原参事様より遷宮奉賛の取り組みに関するご講演をいただきました。

◆靖国神社徒歩参拝（九月二十九・三十日）

本年は五十五周年記念事業として慰霊事業に取り組んでおります。六月には特攻隊長伍井



芳夫中佐のご令嬢・白田智子氏による講演会を、七月には鹿児島県知覧町において慰霊祭を齎行。九月二十九日には埼玉県県護国神社を正式参拝後、徒歩で靖国神社に向かい昇殿参拝を致しました。

◆落語会（十月二十三日）

神宮大麻奉斎推進室が担当し、教化事業の一環として金原亭世之介師匠による落語会を開催致しました。演目は「ぞろぞろ」と「富久」。いずれも神社や神棚が登場する内容です。幕間には神宮大麻の歴史についての解説を行いました。

諸事業を執り行うにあたり、神社庁及び関係諸団体の皆様方、また多くの先輩方より賜りましたご厚誼に厚く御礼申し上げます。

平成二十一年二月九日に開催予定の創立五十五周年記念式典に向け、会員一同さらに心を合わせて参ります。

(埼玉県神道青年会会長)



庁務日誌抄

8・28	祭式研修会 四八名受講 於 箭弓稲荷神社 別表神社懇談会	10・8	正副庁長会・役員会 本宗奉賛委員会	10・1	新井 聡 (新) 高麗神社権禰宜 (入間)
9・2	教化研修部会・神社実務部会 於 埼玉グランド日本庄 前原参事出向	10・12	神宮大麻暦頒布始祭 神宮実務部会 於 大宮・氷川神社	10・1	中野 公夫 (新) 宗像神社禰宜 (大里)
9・4	雅楽普及研修会 二六名受講 於 神社庁 前原参事出向	10・14	解脫会会祖解脫金剛六十年祭・祝賀会 中山庁長参列	10・7	鈴木 正行 (兼) 御霊神社宮司 (秩父)
9・5	教化委員会正副部長会 於 大宮「じゅらく」 全国神社総代会 井上会長、中山庁長他参加 於 福岡「ホテルニューオータニ博多」	10・14	祭儀研究部会 第七十七回中堅神職研修(丁) 河野、甲田、中山、持田、金子受講	9・1	伊藤 英夫 尾崎神社名譽宮司 (入間)
9・8	神青会禊練成研修会 二二名受講 於 越生町・黒山三滝 前原参事出向	10・20	教化事業部会・教化研修部会 青少年対策研修会 武田録事受講 於 長野・とこわか森	9・1	伊藤 省治 (新) 尾崎神社宮司
9・10	祭儀研究部会 於 神社庁 神宮大麻モデル支部対策会議 前原参事・武田録事出向	10・23	神婦会祭式研修会 十三名受講 於 岩槻久伊豆神社 明治神宮・明治維新百四十年記念大会	9・1	中西 正史 (旧) 秩父神社権禰宜
9・11	教化事業部会 於 川越「氷川会館」 埼玉県宗教連盟視察研修	10・24	戸内康雅宮司特級昇進を祝う会 前原参事出席 於 明治神宮会館	8・31	伊藤 英夫 (本) 尾崎神社宮外三社宮司 (入間)
9・16	神宮大麻暦頒布始祭他諸会議 於 立正佼成会本部・南房総、伊豆	10・26	武田録事受講 於 伊勢・神宮会館 一都七県教化担当者会	9・30	本橋 柳作 (本) 瑞穂神社禰宜外二社禰宜 (秩父)
9・18	教化研修会 六八名受講 於 三峯神社 神宮 於 大宮「じゅらく」	10・27	前原参事参加 於 伊勢・神宮会館 茂木、高麗、宮澤出席 於 東京ドームH	婦幽	大野神社宮司 吉田 忠雄 (北足立)
9・22	神宮大麻暦頒布始祭他諸会議 於 立正佼成会本部・南房総、伊豆	10・28	本庁教誨師研究会 於 伊勢・神宮会館 前原参事参加 於 伊勢・神宮会館	大野神社禰宜	大野神社禰宜 吉田 茂典 (北足立)
9・24	神宮大麻暦頒布始祭他諸会議 於 立正佼成会本部・南房総、伊豆	10・29	情報部会 於 箭弓稲荷神社 不活動宗教法人対策会議 於 箭弓稲荷神社		(十月二十八日 享年四十八歳)
9・26	神職総会 一七六名出席 於 埼玉グランド日本庄 神政連盟本部臨時役員会 於 大宮・氷川神社	11・1	武田録事出席 於 都道府県会館 明治神宮鎮座記念祭・復興五十年記念式典		
9・29	神宮大麻暦奉送作業 宮澤、武田、高橋出向 於 春日部日通ベリカン・アローセンター	11・13	庁報編集会議 於 明治神宮会館 中山庁長参列		
10・2	靖国訴訟口頭弁論傍聴・報告集会 於 東京地裁・靖国神社	10・31	任免辞令 前原参事参加 於 川越少年刑務所		
10・3	本庁臨時評議員会 於 本庁 中山、竹本、東角井、井上出席	9・1	伊藤 省治 (本) 尾崎神社宮外九社宮司 (入間)		
10・6	本庁臨時評議員会 於 本庁 中山、竹本、東角井、井上出席	9・1	伊藤 雅浩 (本) 日枝神社宮外六社宮司 (入間)		

神社庁新年互礼会開催について

期日 平成二十一年一月二十日(火・赤口)

会場 大宮・清水園

氷川神社正式参拝 午後三時より

新年互礼会 午後四時より

開催時間が例年と変わりましたのでご注意ください。



埼玉の社叢

熊谷市赤城久伊豆神社社叢ふるさとの森

熊谷市石原一〇〇七

当所には往昔より石原村の鎮守として赤城神社が祀られていた。延徳元年（一四八九）、成田親泰が忍大丞の居館を攻め落とし、忍城を築いたが、城の防備と領内の灌漑のために成田用水を開削した。その際、当所に程近い荒川からの取水門の傍らに、本貫の地で代々崇敬している久伊豆神社（現在の之上村神社）を風水旱の災害・五穀豊熟の守護神として勧請したことに始まる。しかし、この後、荒川の流路が変わり、境内地が浸食されたことから、近くの赤城神社に遷座されたという。現在も二間社流造りの本殿にそれぞれが祀られている。

当社には二本の参道があり、一本は北参道で元からの参道とされ、赤城山を望む両部鳥居があり、中山道の石原村に通じていた。もう一本は東参道で忍城に通じ、歴代の城主が参拝する時に利用された参道である。氏子の通称として、当社を石原の「オヒサエデンサマ」と呼んでいたのも、歴代の忍城主からの崇敬が篤かったことに由来する。

現在も一・二・三ヘクタールの社叢があるが、かつての社はさらに西側・北側へも広がっており、明治期には学校用地、近年では上越新幹線用地となったことから境内地が大幅に縮小している。

昭和四十一年九月二十六日の大型台風では、境内の樹齢三百年以上のものを含む数十本の大杉が倒れ、本殿も大きな被害を被った。また、東参道には、かつて夫婦松のクロマツの大木があった。現在の社叢は、スギ・ケヤキ・クス・エノキなどで構成されており、平成五年三月、ふるさとの森に指定された。

